



- 時代が求める新しい新潟医療福祉大学へ(学長インタビュー)
- 2007年4月義肢装具自立支援学科新設!
- 今年度新設の看護学科・介護福祉コースに聞く
- 転倒予防研究センターの取り組み
- 研究最前線
- 特色ある大学教育の現場から
- 学外実習体験記
- 進路紹介 ―大学院進学という選択―
- 学生生活(部活動/ボランティア)
- CAMPUS NEWS
- 大学祭案内・スポーツ大会報告(学友会)
- 同窓会活動紹介
- 受験生のみなさんへ(受験生向け情報)



オープンキャンパス 好評のうちに終了!

暑い夏の7月15日、8月5日、そして9月9日と本学にてオープンキャンパスが行われました。受験を検討する皆さんに向けたイベントとしては最大規模のこのイベント、高校生をはじめとする大勢の皆さんから県内はもとより県外からも多数参加していただき、暑さに負けない大盛況なイベントとなりました。

特に好評だったのは、各学科紹介や学科別プログラムです。キャンパスに足を運んで、実際の学科の教員や先輩の姿を目の当たりにして、「自分もこの大学で勉強したいと思った。」「AO入試に向けてどのように面接に望んだら良いかヒントを得る事ができた。」と参考になった様子が参加した高校生のアンケートからも伺えました。

本学では夏休み明けから、AO入試を始めとした様々な入試がスタートしますが、「オープンキャンパスで大学へ来るチャンス逃してしまった。」「先生に質問したいことがある。」という方は、今後はキャンパスツアーの機会がありますのでぜひご参加ください。趣向を凝らしたプログラムをご用意しています。

2007年度より新設される学部や学科について、また本学の今後の展望などを高橋学長より語っていただきました。



新潟医療福祉大学
学長 高橋 栄明

時代が求める新しい新潟医療福祉大学へ

●2007年4月より、「医療技術学部」の「健康栄養学科」、「健康スポーツ学科」、「看護学科」が再編成により「健康科学部」として設置され、現行の2学部から「医療技術学部」、「健康科学部」、「社会福祉学部」の3学部体制となります。なぜ今学部を再編成するのか、再編成の意図をお聞かせください。

2007年度からなぜ学部を現行の2学部から3学部へ再編成するのかというと、時代の流れに対応したいという思いがあったことが挙げられます。

高齢化が急速に進む地域社会の中で生活習慣病予防や健康増進に対する取り組みが非常に重要になってきました。地域社会が変化すれば、本学が果たさなければいけない役割もまた変化します。人々が健康で自立して、豊かな生活を送るためには医療と福祉に加え、「正しい運動」「良い食事」そして「充実した地域看護」が必要です。そのため本学が地域社会の期待に応えるためには、「健康栄養学科」「健康スポーツ学科」「看護学科」の3学科を「健康科学部」として、より明確に位置付けて保健や健康に取り組むことが必要であると考えたからです。

●次年度新設予定の義肢装具自立支援学科設立の意図をお聞かせください。

次年度から新設予定の「義肢装具自立支援学科」、この学科構想は介護ロボットから着想を得ています。日本人のロボットに対するイメージは鉄腕アトムに代表されるように人間の味方、あるいは人間の役に立つというものです。ロボットデザインや製造は工学部で学びますが、「福祉機器をいかに

人々の生活に役立てるか」という視点で、医療福祉分野と関連づけて学び、「福祉機器と対象者をつなぐインターフェースになる人材を育成する」学科を作りたいという思いが出発点となりました。

福祉機器について学ぶカリキュラムとして、国家資格である「義肢装具士」に関する科目をベースにして、車いすやコミュニケーション機器などに代表される福祉用具や福祉住環境に関する事柄を学び、高度な福祉機器専門職としての知識を障害者や高齢者が自立した生活を送ることに生かします。福祉用具は対象者の自立を支援するためのものですから、機械的な技術の知識をもって自立を支援していく訳です。

また、意欲ある学生には福祉器具先進国のドイツなどで海外研修を行い、さらにハイスタンダードな技術と実践力を養い、世界で活躍できる人材に育てて欲しいと考えています。

●大学院博士後期課程についても次年度開設しますが、設置のねらいを教えてください。また、今後どのようなことを博士後期課程に期待されますか？

高い意欲を持つ学生が高度な専門性を身につけて社会で活躍することにより、新しい医療やリハビリ、福祉の提案が生まれ、地域社会全体の保健医療福祉のレベルが上がり、充実することを期待しています。

本学の博士課程を卒業した学生は、一部の方は本学や他の機関で教員や研究者として活躍し、一部の方は保健・医療・福祉の実践の場のリーダーとして活躍し、新潟を始めとした近隣の保健医療福祉分野のレベル向上に大きく関わる事でしょう。

残念ながら現在の日本の傾向として、教育期間や教育費の点から博士課程まで進もうという意識が一般的に低いのが現状ですが、本学では働きながら大学院で学べるような仕組みづくりにも取り組み、また、そのバックアップを積極的に行ってまいります。

●今後の本学に望むことや、大学の展望についてお聞かせください。

本学では既に卒業生を2期生まで輩出しておりますが、本学の学生及び卒業生の活躍により、本学で学びたいと新潟を始め全国から思われるような大学として成長して欲しいと思っています。

そのためには海外でも活躍し、世界に本学のことを発信できるような人材を輩出することも重要となります。将来海外での活躍を望む学生には英語教育、特に留学制度を充実させていきたいと考えています。

また、医療福祉に必要な知識や技術は時代の流れに即して変化していくものですから、研修等を通じて、変化に遅れず身に付けていかなければいけません。本学の学生には卒業後も生涯を通じて学習する意欲を在学中に、育てて欲しいと考えています。

人は年をとれば必ず医療のお世話になります。しかし、医療機関のお世話になる期間は短く、リハビリや保健、福祉の助けを借りて出来るだけ長く自立した生活を行うことが望ましい生き方であり、それがQOLを高める生き方です。その手助けをする人材を育成し、地域社会に貢献していく、そのための場が新潟医療福祉大学なのです。

平成19年度から新設される学部・学科

〈平成18年度〉
学部

| | |
|--------|----------|
| 医療技術学部 | 理学療法学科 |
| | 作業療法学科 |
| | 言語聴覚学科 |
| | 健康栄養学科 |
| | 健康スポーツ学科 |
| 社会福祉学部 | 看護学科 |
| | 社会福祉学科 |

大学院 医療福祉学研究所

| | | |
|-----------------|---------|------------------|
| 修士課程 | 保健学専攻 | 理学療法学分野 |
| | | 作業療法学分野 |
| | | 言語聴覚学分野 |
| | | 健康栄養学分野 |
| | 社会福祉学専攻 | 保健医療福祉政策・計画・運営分野 |
| 保健医療福祉マネジメント学分野 | | |

〈平成19年度〉
学部

| | |
|--------|------------|
| 医療技術学部 | 理学療法学科 |
| | 作業療法学科 |
| | 言語聴覚学科 |
| | 義肢装具自立支援学科 |
| 健康科学部 | 健康栄養学科 |
| | 健康スポーツ学科 |
| | 看護学科 |
| 社会福祉学部 | 社会福祉学科 |

※健康科学部は現行の医療技術学部の各学科より健康科学部として再編成する予定です。

大学院 医療福祉学研究所

| | | |
|-----------------|--------------------|------------------|
| 修士課程 | 保健学専攻 | 理学療法学分野 |
| | | 作業療法学分野 |
| | | 言語聴覚学分野 |
| | | 健康栄養学分野 |
| | 社会福祉学専攻 | 保健医療福祉政策・計画・運営分野 |
| 保健医療福祉マネジメント学分野 | | |
| 博士後期課程 | 医療福祉学専攻 (認可申請中) | |



医学と工学との融合が 新しい医療福祉の可能性を広げる

2007年4月義肢装具自立支援学科開設！

2007年4月新設予定の義肢装具自立支援学科、その設立意図や意義について伺いました。

目標とする資格

- ・ 義肢装具士（国家資格）
- ・ 福祉用具専門相談員
- ・ 福祉用具プランナー
- ・ 福祉住環境コーディネーター



義肢装具自立支援学科
学科長/教授 江原義弘



義肢装具自立支援学科
助教授 阿部 薫

●医療福祉系大学で全国初の義肢装具士養成
義肢装具自立支援学科は国家資格としての義肢装具士を目指す学科として2007年4月の開設を予定しております。義肢装具士は1987年に法制化され、1988年から第1回の国家試験が実施されています。他のリハビリテーションのコメディカルライセンスと比較すると、やや新しい資格といえます。主たる業務は義肢（義足や義手など）と装具（膝サポーターなど）の採型・製作・適合となっています。国家資格としての成りは19年前でしたが、義足などの製作自体は江戸末期から明治初期に始まったことが史料で明らかになっており、その後継者が連綿と今日まで活躍されています。

法制化に同期して受験資格を得るための養成校ができ、現在では全国に専門学校が7校、工業大学の専攻コースとして1校があります。わが義肢装具自立支援学科は、養成校としては9番目、医療福祉系大学としては初めての開設となります。これまでの専門学校教育と大学教育の大きな違いは、まず修業年数が3年間と4年間であることでしょう。最低限習得しなくてはならない分野や科目は法令によって定められているため、これ以外の分野と科目が、時間的要素として1年間分プラスされることとなります。また教授される内容も国家試験の範囲にとどまらず、臨床・応用的に広範な知識と技術を網羅することが可能となりました。幸いなことに教員の陣容は各分野の

エキスパートが集結し、義肢装具および福祉機器の重鎮や新進気鋭の学者で構成された強力なる集団であると自負しております。またハード面においては、新規の校舎と充実した学習設備について鋭意検討中であり、両側面から学生をサポートするようにしています。

●大学で義肢装具を学ぶ意義

大学で義肢装具を学ぶ意義には、いろいろな面があります。大学教育の重要な点は、物事の真理を追及するという学究的姿勢があげられます。4年間という時間を最大限に活用し、理論と実践、具体的な実習（学外および海外含む）を通じて、広く社会に貢献できる人材を養成することが目標の一つです。義肢装具士の国家資格を取得することのみにとどまらず、例えば「ヒト」に関しては教育者や指導者となり得る人材の育成や、「モノ」に関しては新しい材料・機器を開発する研究者や企画開発を担当する人材の育成も視野に入れています。いずれにしても、今後の義肢装具および福祉機器の分野における、指導的立場に位置する専門家教育を行なうことが、大学で義肢装具を学ぶ意義として強調されるべき点でしょう。

義肢装具士は医療における「ものづくりと適合」を担当します。つまり医学と工学の両面を合わせ持つユニークな職種といえます。これまでの教育体制は時間的制約もあり、主として製作技能に偏りがちなものでした。また工学系の大学には福祉工学や医療工学を標榜するコースもありますが、どうしてもベースが工学であるため、そこには人間の

理解が手薄になるというハンディがあるといえるでしょう。本来的には医学と工学を車の両輪としなくてはならないと考え、ヒトの理解とモノの理解を融合して社会に貢献するという新しいアプローチを提案しています。ここでの視点はモノづくりにあたって対象者の希望、しかも本人も気がつかないような潜在的な残存能力をきちんと見極めたくて他の職種と連携をとりながら本人の希望をかなえられるような能力です。このような能力をもった義肢装具士を育てていきます。

●自立支援の意味を含んだ教育

「自立支援」に込められた意義は、援助を必要とする人々の身体的・社会的に自立した生活の質を向上させるための包括的な人間的アプローチを意味します。例えば食事や整容・車いすといった身の回りのことから、福祉住環境など福祉機器の広範な分野を包含するのです。義肢装具にとどまることなく、「人間の理解」をベースにすべての福祉機器を熟知した新しいタイプの義肢装具士を育成することが義肢装具自立支援学科の大きなねらいです。



新校舎(イメージ図)



今求められる 質の高い看護を実践する力



看護学科長/教授
渋谷優子

今年度より開設した看護学科では、高度な専門知識・技術と豊かな人間性・倫理感を持ち、保健・医療・福祉の分野を総合的に理解し、他の専門職との連携・協働の下、患者・障害者・高齢者など対象の人々のQOL向上に寄与する看護専門職を育成しています。

力を習得します。

度の変革が進む中で、看護の役割、機能が一層拡大する傾向にあります。国民が求める十分な情報提供に基づく自己決定や安全で安楽な満足度の高い保健医療福祉を実現するために、看護師には倫理的判断、根拠に基づいた適格な看護提供が求められます。人間を深く理解する教養の涵養、患者、医療職者との信頼関係を築く対人関係能力、看護過程の展開や生涯学習の基礎となる知識・思考力や、看護技術を習得するために教育目標の明確化を図っています。

②チーム医療における看護師の責務に対応できる基礎教育が必要です。チーム医療や保健医療福祉の連携・協働における看護師による調整やマネジメントの役割の責務が現場では求められています。責務を遂行するための他専門職と見合う大学の基礎教育の充実が必要とされます。

●看護学科の分野

看護学基礎教育は、国民の看護ニーズに的確に応え、保健医療福祉に貢献する人材育成を目指すため、看護専門職の国家試験受験資格要件を満たす4つの分野を置いています。①基礎看護学：看護学とはなにか、基礎理論を学びPBL(Problem Based Learning)方式学習法を通して判断力を高める自主学習法を習得します。②発達看護学：人間のライフサイクルにおける成長・発達を身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的側面から健康にアプローチします。③健康障害学：人間のライフサイクルにおける疾病・障害レベルに応じたチーム医療と看護支援能力を習得する。④健康機能発達看護学：地域住民の健康ニーズに対応し、安全で健康生活の質向上が図れるよう適格な保健医療福祉の連携・協働による支援能

●看護師育成の現状

看護師の養成数は1学年定員52,471人(2005年4月)で、その内大学入学定員数は9,644人で18.4%を占め増加傾向にあります。しかし、3年制養成所の入学定員数が45%を占め依然有力ではありますが、増加傾向にある大学には次のような期待がされています。

●大学で看護師を育成する意味

①看護師の役割拡大に伴い、基礎教育で学習すべき専門内容の増加と根拠に基づいた学問体系化による大学教育が必要とされています。

疾病構造、経済状況、医療の高度化、国民主体の医療の在り方など保健医療福祉制



心に寄り添う 介護福祉士の育成を



社会福祉学科 助教授
岡田 史

近年、社会福祉とりわけ介護福祉は目覚ましい発達と変容を遂げました。2000年の介護保険制度が大きな引き金になったことは言うまでもありません。マルチな能力を持った社会福祉専門職が求められています。今年度より社会福祉学科に増設した介護福祉コースは、社会福祉士受験資格をベースにしなが、介護福祉士の国家資格を取得することができるコースです。

●21世紀における介護

私たち人間は様々な克服しなければならない課題を持っています。その一つが介護です。高齢化率や平均寿命のニュースは、長寿の喜びだけではなく、これからの介護の必要性についても私たちに語りかけてきます。認知症の人の尊厳を守る介護や、自立支援する介護、地域で自分らしく生きていくことを支援する介護、と介護のテーマは大きく広がっています。その大きなテーマに向かって学んでいくのが介護福祉コースです。例えば一人の認知症の高齢者のこ

とを思い浮かべてみましょう。記憶保持の力が低下すると、不安になります。眼は不安を隠せません。何かしようとする時失敗し、あきらめて、心を昔の思い出の場所に移しているのかもしれませんが。あなたに何かを語りかけ訴えています。貴方は何をどのように感じますか？そしてどのように接していけばこの方は幸福になることができるでしょうか？しっかりと心を開いて、その方の心の声を聴いていきます。高度なコミュニケーションの能力が必要です。

介護というと様々な介護の行為が浮かび

ますが、何よりも大切なことは、利用者の尊厳とニーズです。心にしっかりと寄り添う介護が今求められています。介護福祉コースでは社会福祉の専門的な学習と共に、先駆的な21世紀の介護を研究し学ぶ場になっています。



転倒予防研究センターの取り組み

高齢者の転倒・骨折は、寝たきりになる主な原因のひとつであり、医学的、社会的問題となっています。新潟医療福祉大学及び新潟リハビリテーション病院は、この問題に対していち早く取り組み、多くのデータとノウハウを積み重ねてきました。転倒予防研究センターはこれらの成果をさらに発展させ、地域貢献をするために設立されました。



転倒予防研究センター
副所長 小林量作
(理学療法学科 助教授)

●センターの活動目的と内容

- ① 高齢者一人ひとりの健康増進・体力向上に貢献します。センターで転倒予防のための運動プログラム開発しました（後述）。
- ② 転倒・骨折予防についての基礎的研究、疫学的研究を行い、学会発表などを通じて学術的貢献をします。市町村の転倒予防教室の支援を行い、教室の企画、測定データの集計・解析、データの返却、報告書のまとめ等まで行います。
- ③ 市町村、高齢者施設、医療機関などが行う事業をサポートし、社会的貢献をします。教員、大学院生の研究で、転倒予防運動の効果、全身振動刺激トレーニングの効果、「すべる」「つまずく」による転倒の力学的、動作学的メカニズム解明を行っています。

●センターで開発した運動プログラム

運動プログラムは、特別な機器を使用しなくても、誰でも、どこでも、いつでも、安全に実施できる「転倒予防10種（自主）運動」「集団リズム運動」「早足歩行（散歩）」という3つの柱を立てました。

「10種運動」は、体幹のストレッチング3種目、筋力向上運動5種目、バランス向上運動2種目で構成されています。高齢者が「10種運動」を行うには、適切な運動負荷とリスク管理が大切です。実施上の7つの留意点として、①無理をしない ②最初の数週間は「ならし期間」 ③自覚的運動強度による運動負荷 ④運動量の変更は少しずつ ⑤いつでも・どこでも実施して良い ⑥休日を設ける ⑦痛みや動悸はすぐに相談があげられます。

「10種運動」は、一般高齢者、特定高齢者を対象にした立位版、要支援・要介護高齢者を対象にした座位版の2種類があります（右図のポスター参照）。立位版の運動の種目は、体幹のストレッチングが①立位で横に曲げる ②立位で捻る ③立位で反りかえるです。筋力向上運動は④うつ伏せで下肢を挙げる ⑤うつ伏せ両肘をつき反りかえる（オットセイのポーズ） ⑥横寝で下肢を挙げる ⑦立位でハーフスクワット ⑧立位で下肢を大きく挙げた足踏みです。バランス向上運動は⑨熊這いのポーズ（あるいは四這い）で片側上肢と反対側下肢を同時に挙げる ⑩片足立ちで飛行機のポーズをとり、姿勢を保持するです。これらの運動を1日実施したら、1日休むような頻度（例えば、月、水、金に実施）で行うことを勧めています。

ポスターに掲載の運動を指導なしで行うと危険を伴う恐れがあるため、縮小して掲載しています。より詳しい運動プログラムを知りたい方や質問がある方はお問い合わせください。

TEL & FAX 025-257-4443 (小林)

- 〔公開講座〕 9月30日(土) にいがた連携公開講座
会場：長岡小国公民館
- 〔講演会等〕 10月2日(月) 村上市健康増進普及講座（リーダー養成講座）
会場：村上市勤労青少年ホーム
- 10月21日(土) 新潟医療福祉学会（シンポジウム）
会場：新潟医療福祉大学
- 11月11日(土) 第33回日本赤十字リハビリテーション学会（基調講演）
会場：飯山赤十字病院



認知症の診断と治療についての研究 「言語聴覚学科 高次脳機能障害学研究室」

認知症（痴呆）は長寿社会における最大の課題の一つであり、その診断と治療、療養と介護の方法論の確立は社会的要請です。本研究室では、アルツハイマー病やレビー小体をともなう痴呆（DLB）の患者さんの記憶障害や遂行機能障害、認知機能変動、行動心理学的症状などの診断と治療について研究を行っています。各研究は本学の主実習病院でもある新潟リハビリテーション病院の物忘れ外来と連携して進めています。また、社会福祉学科介護福祉コースの岡田史助教授と共同で、介護者教育のプログラムに関する研究も行っています。

本研究室の主役は何とんでも学生です。所属する学部3年生、4年生、大学院生と、研究室の教員、さらに新潟リハビリテーション病院の言語聴覚士が協力して研究を進めています。各学年の所属学生全員が協力して、必要な研究データの収集と整理を行う姿も毎年みられます。また、いくつかの研究テーマは学生から学生に受け継がれています。先輩の研究論文を発展させて後輩が研究を進めていく形で、2年、3年と研究

が継続しています。

また本研究室では、学生は自分の研究を全国規模の学会で発表し、学術雑誌に論文として投稿することが原則です。今年も学会の会場で、在學生と研究室出身の卒業生が顔を合わせ、研究室の教員や新潟リハビリテーション病院の言語聴覚士とともに“同門会”を開くことになるでしょう。

【研究室からの論文の一部：学部学生と大学院生の研究】

伊藤直亮他：MMSEの3単語再生課題への補助再生と再認再生の導入の試み—記憶障害の重症度評価としての可能性の検討—。神経心理学 21: 252-258, 2005。

北村葉子他：アルツハイマー病のBPSDに対する塩酸trazodoneの有効性の検討—指示・誘導・介助への興奮拒否に注目したretrospective study—。脳と神経 58: 483-488, 2006。

小栗涼子他：MFQの日本語版によるレビー小体を伴う痴呆患者の認知機能変動の検討。神経心理学22:130-137, 2006。

及川尚美他：アルツハイマー病におけるADL上の遂行機能障害について—DEXによる検討—。神経心理学 22: 138-145, 2006。

言語聴覚学科 教授 今村 徹



学会場にて。学生、教員とご指導いただいた言語聴覚士の先生方で“記念写真”。2列目右が今村先生

保健・医療・福祉の包括的なケアの提供を考える 「藤澤由和研究室」

当研究室では、保健医療福祉分野にかかわる様々な研究に取り組んでいます。今回はその一部の「地域包括ケア研究センター」をご紹介します。新潟医療福祉大学では学部、学科の枠を超えてプロジェクト研究を行う研究推進機構があります。その一つとして「地域包括ケア研究センター」があります。

日本の医療・福祉の現状は大きく変化をしています。感染症等の急性疾患から生活習慣病等の慢性疾患の増加、他国にはない急速な高齢化、そして個々人の考え方の多様化に伴う嗜好の変化や個人主義への変化などがあります。これまでのサービス提供の方法は、まさに変革の時

期を迎えています。その中において保健・医療・福祉の包括的なケアの提供はこれから必要なサービス提供の形であるのです。医療なら医療の分野、福祉なら福祉の分野と区切るのではなく、一人の個人を総合的に包括的に捉えていくアプローチの仕方、そして専門職者間の連携が求められるようになっていきます。こうした背景のもと、地域における様々なサービスの包括化の実態やその問題点、そしてこれからあるべき地域を基盤としたケアの包括モデルの構築等を国内だけでなく海外の研究者とともに研究しています。昨年度は2回の国際シンポジウムを開催し、オーストラリアや韓国、日本

の研究者からの問題提起や活発な意見交換を行いました。

ここで紹介した「研究」というと一般にはあまり馴染みがないと思われるかもしれませんが、皆さんの日常生活の中でも研究的な活動は存在します。例えば、他職種からなる医療や福祉の現場において、なぜこのような多様な専門職種が必要とされるのかという点を考えることも一つの研究活動となり得ます。また将来、医療や福祉の現場で働く際に、よりよい仕組みづくりを目指すという視点に立ち、そうした視点を組織や集団といった次元で取り込んでいくという意味では、日常業務も研究も共通のものであると考えられます。興味を持つ心、チャレンジする心さえあれば、どんなことも研究であると思います。皆さんも自分の家族や地域のことなど、身の回りの様々な事柄に興味を持ち、あらゆる視点に立って考えてみてはどうでしょうか。

社会福祉学科 助教授 藤澤 由和



オーストラリア サザン・クイーンズランド大学との国際シンポジウムの様子



少人数で大きな成果を —基礎ゼミI—

●基礎ゼミ I

「基礎ゼミ I」は、1学年前期に全学科の学生が履修する必修科目であり、本大学の特徴的な授業です。この授業は、学科ごとに少人数（6～8名）のゼミに分かれ、学習に関する基礎的な知識・技術を習得するとともに、学生が円滑に大学生活を送ることができるように、健康・安全に関する知識を身につけることを目的としています。学科ごとに授業計画が様々であり、教員間でも進め方は様々です。具体的に学習面では、大学生として必要なコミュニケーション能力（読む・書く・聴く・話すなど）を実践します。また、ゼミ教員（アドバイザー）とゼミ



学生の良好な人間関係を築き、対人交流の技術を発展させ、大学生活を健康で安全に過ごすことへと展開していきます。「基礎ゼミ I」の大きな利点は、一人のゼミ教員（アドバイザー）が、少人数の学生の大学生活全



般を把握することが出来るため、一人ひとりの学生に対して親身になって相談することができるのが大きな特徴です。

●基礎ゼミ I で取り組んでいる課題（理学療法学科）

理学療法学科では、グループワーク（課題研究）を行っています。今年のゼミは合計16ゼミあり、ゼミごとにテーマ（課題）を一つ決定し、それについて必要な情報を収集して要点をまとめる作業過程を学生が主体的に実践します。各ゼミのテーマは、日常生活からの何気ない疑問、身体・生体の構造、スポーツ競技、趣味、嗜好、娯楽など多種多様です。そして、最後にまとめ上げたテーマについてプレゼンテーション（発表会）を行ない、活発な意見交換が繰り広げられます。この課題研究への取り組みが、3、4年生に行なわれる臨床実習、卒業研究、さらに卒業後の臨床業務、研究活動に生かされてきます。

理学療法学科 講師 相馬 俊雄

大自然からチームワークを学ぶ —体育教育—

本学では開学以来、体育教育を人間形成の非常に有用な教育技法の一つとして位置づけ、一貫して取り組んで参りました。その取り組みの中でも大変に特徴的なものが、学外の自然環境の中へ飛び込んで行って実習を行う「スキー」や「カヌー」、「トレッキング」の各実習です。これらの実習で学生は、他者と関わりを持ちながら活動を遂行するという医療福祉関連職を目指すものにとって必須とも言うべき学習を体験します。

工業技術と科学的知見の飛躍的な進歩による社会の高度情報化が進む中、我々人間同士が

相互に生身で接する機会は以前よりも大幅に少なく、そして密度も希薄になっているように思われます。直接会って言葉を交わすことが電話に取って代われ、その電話も電子メールに取って代わられると言ったように、利便さを追求し続けた結果、我々の行動様式は大きな変化を強いられてきました。もちろん、



この社会全体の方向性は否定されるべきものではなく、むしろ歓迎すべきものであります。しかしながら、医療福祉関連職を目指す若者にとって考えるならば、この方向性にむしろ逆行するような経験こそが人間そのものと深く関わりながら職務を遂行する彼らの将来にとって有益であるとも言えるでしょう。

前述の実習の中で受講生は、他者を観察し、また観察され、



共に協力し励まし合うという濃密な時間を過ごします。それは学内の教育施設だけでは得ることが困難な、非常に貴重な時間であり、同時に将来の職業に対

するビジョンを確かなものにするための大きな助けになっているものと、実習の担当者は確信しております。

健康スポーツ学科 助教授 柵木 聖也

(写真提供：健康スポーツ学科 教授 高橋一栄)

学外実習体験記

実習を通して「体験」を学ぶ

新谷文野さん(作業療法学科4年) [実習協力先]新潟県立小出病院(精神領域)・8週間

8週間の臨床実習において実習でしか手に入らないものを学びました。それは「体験」です。授業や教科書で習うことも、体験によって裏づけされていないので「なんとなくわかる」状態でしたが、実際の患者様を目の前にして体験することで「こういうことか!」に変わり、毎日が新しい発見でとても充実しています。特に精神科では心を使って患者様に接することや共感することの大切さを感じました。

また、患者様とじっくり8週間向き合うことで、自分の未熟さを痛感しながらも試行錯誤し、目先の障害像のみにとらわれるのではなく患者様の生活全体を捉えることが大切であると学びました。最も難しいと感じた部分は、患者様の抱えている生活の障害を捉え、治療に生かすことでしたが、指導していただき治療を実施した結果、当初は見られなかった患者様の変化や笑顔が見られ、作業療法士としてのやりがいを感じました。



この臨床実習を通して、自分に足りないものが体験であると感じました。ここから、より広い視点を持って患者様と接するためにはいろいろな人と接し、様々な体験をすることが大切ではないかと考え、この教訓を今後の生活に取り入れていこうと思います。



※写真は実習先ではなく学内での実習風景です

患者さんと向き合うことで見えてきたもの

徳間彩香さん(言語聴覚学科4年) [実習協力先]住友別子病院(愛媛)・5週間

まだ肌寒さの残る5月、私は愛媛で5週間の総合実習をさせていただきました。この実習を通して私が学んだことは、もしかしたら一番基本的な、ST(言語聴覚士)としての在り方だったと思います。私が実習させていただいた病院は、急性期～慢性期の成人患者さんが病棟や外来から言語のリハビリに来られます。お会いした当初は表情も言葉もみられなかった患者さんが、ゼリーや嚥下食品を食べ、うなずいたり笑い声をあげる様子は、家族だけでなく私たちにとっても救いでした。挨拶に対し「こんにちは」と発語がみられたときは、それが自動的な反応であっても本当に嬉しかったものです。一方で、今の自分の機能に納得がいかず、苦しめる患者さんも沢山いらっしゃいました。そのような患者さんに笑顔がみられたり、真剣に訓練に取り組んでいる姿をみると、自分も頑張らなければという気持ちが沸いてきます。検査や訓練、知識や技術など、STとなるために身に付けなければいけないことは多くあります。しかし目の前に患者さんがいて、その方の為に何ができるか、一人の人間として向き合えるかという事は、専門職として不可欠でありながら、時に一番忘れそうになるのではないかと思います。気付けば残り少なくなった学校生活ですが、立派なSTになりたいという目標をもう一度新たにできた実習期間でした。



※写真は実習先ではなく学内での実習風景です

積極性の大切さを実感

清水亜樹さん(社会福祉学科4年) [実習協力先]精神障害者通所授産施設 角田の里(新潟)・12日間

私は、精神障害者通所授産施設で実習させていただきました。精神障害者の方と直接関わることで、精神障害者に対する理解が深まり、疾病から生まれる生活障害について自分なりに考えることができました。また、施設での精神保健福祉士の業務を学びましたが、訪問、他施設・病院との調整、面談など一言ではまとめられないものでした。事前学習で自立支援法、精神疾患について学習したことが役立ちました。実習中、SST(社会生活訓練)のウォーミングアップをさせていただきましたが、SSTに関する学習が不十分であったため、反省しました。事前にSSTについて学習し、イメージを持ってから実際のSSTがどのように行われているのを見ることで、学べる濃さが違ったのだと思いました。先生から指導頂き、実習先から渡されたプログラム通りに行うのではなく、自分なりのプログラムを作りました。毎日学ぶことを決めて、あれを見たい、これを見たいと実習先に申し出ました。そうすることで、すごく充実し、より理解を深めることができた実習になりました。実習では積極性がいること、ボランティアとは違うため、多くのことを学ばなければ意味がないと改めて感じました。今回の実習で、精神障害の分野で働き、精神障害者の支えになれるような精神保健福祉士になりたいと強く思うことができました。



進路紹介 —大学院進学という選択—



迷っているなら大学院進学を！

保健学専攻 理学療法学分野1年(江原ゼミ)
新潟県出身

坪井清則さん

まず少し自己紹介から。私はこの大学の卒業生ですが、その前に工学系の学校を卒業して何年か働いてから医療福祉の世界に入ってきました。ということで年齢は少しイッています。医療職としてはまだまだ駆け出しのひよっ子です。大学院という道を選択した理由ですが、実は自分でもコレといったモノはないまま決断をしてしまいました。確かに1年間働いてみて、結局理学療法ってなんなのだろうと疑問に思うことはいくつかありましたが…。ただそれが、院に進学したからといって解決するような単純な問題でもなく…。

このQOLサポーターというのは在生学生も読む冊子ですよね？そんな学生さんに向けて一言！もし大学院に進学しようか迷っているなら思い切って進んでみたら良いと思います。我が大学院のウリは社会人がたくさん学んでいるということです！それこそ、全てを

知り尽くしたベテランから、バリバリの中堅、そして私のような新人まで…。職種は様々ですが医療福祉に関連しているということで、その手段は違えど患者さんの為・利用者さんの為という目的は一緒なのです。そして、私のような新人には、これら経験者との何でもない会話が自分の仕事や考え方についてとても勉強になったりします！

さあ、あなたも私達と一緒に自分の世界を広げてみませんか？



2度目の学生生活を満喫

保健学専攻 作業療法学分野2年(矢谷ゼミ)
鹿児島県出身

山口 昇さん

患者さん・学生さん、そして家族のために25年間働いたから、そろそろ自分へのご褒美があっても良いかな、幸い自由に使えるお金も少し貯まってきたし…。そんな単純な動機と矢谷教授の勧めもあり、即断して仕事を辞め、本大学院に入学した。30年前の大学とは様変わりし、今の大学・大学院の学生は真面目に勉強に取り組んでいる！過保護すぎる所が気になるが、もっと広く「社会勉強」したら良いんじゃないかと思いつつ、2度目の学生生活と自由な時間を味わっている。

幼い頃に聞いた「末は博士か大臣か」は、社会的成功の証的な言葉である。大臣はなかなか手には届かないが、規制緩和で大学院の門戸が広がり、博士の方はずっと身近に、努力次第では手に届く範囲にある（それだけ権威性は失われたことになるのかもしれないが）。

個人的には臨床経験を積まず、すぐに大学院に進学することには反対だが、臨床経験を積んだ後、疑問が湧いたら、それを解決するために大学院に行こう。私のように躓（と）うが立ってからよりも、「鉄は熱い内に…」の言葉通り、若い内が思考も柔軟で、発見も多いだろう。結果として学位も取得でき、一石二鳥だ。幸い、本大学院は夜間に開学されており、通学可能な人は仕事を辞めずに学ぶことができる。この機会を生かさない手はない。もう一度、大学院に行こう。



自分の世界を広げた、教育者になるという夢

保健学専攻 健康栄養学分野1年(川中ゼミ)
北海道出身

佐々木万衣子さん

学部時代から分かりやすく楽しい授業をする先生方の姿に憧れを抱いていました。将来について悩み始めた頃、私も先生方のような教育者の一人になりたいと思うようになりました。また、卒業研究で自分が興味や疑問を持った未知のものを研究することにも大きな魅力を感じるようになりました。そこで、教育や研究についてもっと学びたいと思い決めたのが大学院進学です。現在、大学院では教育や研究についてはもちろんですが、他職種のことも学んでいます。大学院では他職種の授業を履修できるほかに、様々な年代・職種の方と交流することができるので、自分の専門以外の分野まで視野を広げることができ、勉強になります。研究は、糖尿病予防や治療の運動処方を確認するための基礎研究を行っています。糖尿病の運動処方は既に確立されているように思われますが、運動の種類や強度

など、まだ未知の部分がたくさんあります。それを少しでも解明できればと思います。現在研究を進めています。まだ歴史を刻み始めたばかりの大学院で、毎日が手探りで苦しいこともあります。研究で何か発見があったり、校外の研究者の方と交流する機会があったりと、自分の世界や夢はどんどん広がっていきます。自分の世界が広がる場所、それが大学院だと思っています。



軽音楽部

軽音楽部は少人数でのバンド活動を主とし、年に数回ある発表の機会に向けて日々鍛錬をしています。主なライブは年に2回で、6月には市内のライブハウスを貸し切りにしてライブを行いました。今の時期は10月の伍桃祭の出演を目指して各バンドが猛練習をしています。また、学内から飛び出して路上での演奏などを精力的に行っているグループもあります。私たちは音楽を通じて、部員同士はもとより、外部との交流も積極的に行っていきたいと考えています。



和太鼓部

私たち和太鼓部「颯」は3年前にサークルとして立ち上げ、昨年部活となりました。現在部員18名で学内、学外を問わず様々な場所で活動しています。

これまでも、学内では「ハッサン大学との交流締結式記念演奏」をはじめ入学式、卒業式、伍桃祭など学外では松浜商店街で開催された「夜市」、「ござれや花火」、老人介護施設、保育園等で演奏を行っています。今後も太鼓を通じて多くの人々と交流を図っていきたいです。



VICON部

今年度、VICON（バイコン）部という世界初(!?)の部活を結成しました。私たちは「基本は元気なあいさつ！楽しく！先輩と後輩でともに学び、絆を築く」を目標にVICON（三次元動作解析システム）を使って福祉機器を使った動作やスポーツ動作を計測・分析しています。現時点では部員は理学療法学科しかいないのでこれからは学科を越えたつながりをつくっていかたいと思っています。学科学年は問いません。入部お待ちしております！



学生生活

ボランティアセンター

7月2日(日)「第3回新潟県学生ボランティアサミット」が行われボランティアセンターも参加しました。

主な活動内容として、①ボランティアの依頼の受け付け②ボランティアを希望する学生の募集を上げ、設立したばかりでまだ活動が安定していないことを問題・改善点として発表しました。現在は、新潟総おどりや豊栄青年会議所などからのボランティアの依頼を受けています。サミットでの反省をこれからの活動に活かしたいと思っています。



ボランティアサークル 学生Kids

7月の学生Kidsの交流会は亀田町のふれあいプラザでのプール活動でした。はまぐみ小児療育センターの理学療法士の先生方の遊泳指導を子どもたちと学生がペアになって受けました。地上では歩けない子どもたちも水中では笑顔いっぱいだったプール活動でした。

学生Kidsの主な活動は、月例の交流活動の企画・運営とNPO法人ネットワークKidsの援助・支援です。大学開設時に設立され活動も6年目に入り、学生と障害児者の交流が、定例活動以外に大学内外で日常的に行われるようになったのが最大の成果です。



レクア.コム部

7月2日(日)に、NSGカレッジリーグ学生総合プラザSTEPにて、「新潟県学生ボランティアサミット」が開催され、「レクア.コム部」は企画・運営にあたりました。今年で3回目となるこの会は、学生ボランティアの現状や課題等について研究討議並びに情報交換を行うとともに、社会貢献活動を推進することを目的としています。ボランティア活動を行っている学生等の活動報告・グループディスカッションを通じて、ネットワークを強化するとともに、それぞれが抱える問題解決の糸口を見つけ、相互に更なる発展を目指す足がかりとなりました。



ハッサン大学と学術交流締結

6月26日(月)、アメリカ ハッサン大学と学術交流の覚書を締結しました。既に中国のハルビン医科大学第一臨床医学院、オーストラリアのサザン・クウィーンズランド大学と本学は交流締結を結んでおり、今回の締結で3校目となります。

新潟医療福祉大学では3年ほど前から、教員と学生がハッサン大学へ音楽療法や英語の

勉強を兼ねた研修旅行を継続して行い交流してきました。こういった交流の中から一期生にはカリフォルニアでの大学院を目指すものもでてきており、今後は中・長期にわたる留学も実現させるとともに、ハッサン大学からも学生を招き、相互交流を進めていくことを検討しています。

当大学の学生及び受験を希望される皆さん

には是非、在学中の海外研修や卒業後に海外の大学院で勉強を続ける方向も夢として考え、実現に向けて歩んで戴きたいと希望しております。

国際交流委員長 理学療法学科教授 高木昭輝



水泳部「関東学生選手権」「日本学生選手権」結果速報！

8月1日(火)～3日(木)、「第79回関東学生選手権水泳競技大会」が開催されました。選手たちの善戦により男女ともに総合2位の成績を修め、女子は1部、男子は3部への昇格を決

めました。また9月1日(金)～3日(日)に行われた「第82回日本学生選手権水泳競技大会」では、創部2年目にして、澤田涼選手(健康スポーツ学科2年)が800m自由形で5位入賞と

いう快挙を成し遂げました。澤田選手は400m自由形でも10位入賞(B決勝2位)となり、松金祥子選手(健康スポーツ学科2年)が200m自由形で14位(B決勝6位)の好成績を修めました。

新潟県初！全国障害者スポーツ大会選手団役員に社会福祉学科学生が選出

10月14日(土)～16日(月)の3日間、兵庫県で開催される「全国障害者スポーツ大会」に社会福祉学科4年の五十嵐愛さんが、新潟県選手団役員の卓球競技介助員として選出されました。本大会は、各県から選ばれた計3,500人の選手

が陸上や車いすバスケットボールなどに挑む全国最大規模の障害者スポーツの祭典です。

五十嵐さんは、新潟県内の学生としては初の選出となり、新潟県の卓球競技介助員として知的障害のある女子卓球選手2人を担当

し、試合以外の身の回りの世話などにあたります。「障害者がスポーツを生きがいにし、楽しむための架け橋になりたい。」と夢を話す五十嵐さん。10月の大会にもぜひご注目ください。

第3回 医療福祉職求人説明会

真夏の太陽がまぶしい8月9日(水)、本学において「第3回医療福祉職求人説明会」が開催されました。この求人説明会は就職支援の一環として学外実習の終了したこの時期に例年実施しています。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、精神保健福祉士の採用を予定している医療福祉施設74施設130名(県内28施設・県外46施設)の採用担当者の方を本学にお招きし、また4年生約250名が参加して盛大に執り行わ

れました。まず、会の初めに高橋榮明学長、村山伸子就職センター長による挨拶に続き、各教室に分かれての個別ガイダンスを実施いたしました。採用担当者からは当該施設の説明や本学学生からの質問に丁寧にお応えいただきました。参加施設のアンケートからは「是非1名でも多く採用できればと思う」「貴学のような優秀な学生を継続して採用していきたい」など本学に対して非常に高い評価をいただくことができました。また、参加した学



生からは「先輩から医療施設の生の情報が聞けたので良かった」「病院見学会の日程・内容が聞いて良かった」など面談に参加した学生にとって、情報収集とともに、卒業後の自らの進路に向け大きな収穫を得ることのできる充実した説明会となりました。

第6回 新潟医療福祉大学 学術集会のご案内

質の高い豊かな人生を送るためには心身の健康は欠かせません。その実現に、大学はいかに寄与できるのでしょうか。本学会はこの課題を正面から採り上げました。基調講演には桜美林大学加齢・発達研究所長の柴田博教授をお迎えし「長寿社会の食育・体育・知育」についてお話し頂きます。シンポジウム「地域の健康を支える大学の役割」では栄養、スポーツ、転倒予防の立場からの検討を行います。入場は無料です。市民の方々のご来場をお待ち申し上げております。

第6回 新潟医療福祉大学学術集会

日時：2006年10月21日(土) 9時30分～16時30分

会場：新潟医療福祉大学大講堂(図書館棟3階)

主催：新潟医療福祉学会 学術集会会長・佐藤勝弘(健康スポーツ学科)

プログラム：9:30～11:30 医療・福祉・健康科学に関する研究報告

12:30～13:00 新潟医療福祉学会総会

13:10～14:15 基調講演「長寿社会の食育・体育・知育」

14:30～16:15 シンポジウム「地域の健康を支える大学の役割」

●健康栄養の立場から ●健康スポーツの立場から

●理学療法・転倒予防の立場から

【学会事務局】新潟医療福祉大学 健康スポーツ学科 TEL&FAX 025-257-4695

学友会

第6回大学祭(伍桃祭)のご案内

今年で本学も開学6年目を迎え、さらに1学科新設されたことにより、学内は活気に溢れています。大学と共に歩んで来た今年の第6回大学祭(伍桃祭)のテーマは『キセキ〜軌跡と奇跡と輝石』です。私達が充実した学生生活を過ごすことができるのは、これまで多くの方々によって築きあげられてきた軌跡があるからです。大学と地域との交流、部活動、サークル活動の活躍があり、我が大学の軌跡が築きあげられてきました。そして、その軌跡の中の一つである伍桃祭は、今まで『絆』『LIFE』という人と人との関わりを大切に、笑顔でいる幸せや生きている幸せというテーマの下、数多くの方々によって創りあげられてきました。だからこそ、伍桃祭を通して学生や地域の方々、伍桃祭に足を運んでくださる方々と出会えた奇跡やふれあいの中で起こる奇跡を人生の中の一部にしてもらえたらと考えています。また、伍桃祭の活動を行なうにあたり、輝石のように一人一人の個性が輝くことを、この『キセキ〜軌跡と奇跡と輝石』というテーマに込めました。看護学科も加わり、さらにパワーアップした新潟医療福祉大学の伍桃祭にぜひお越し下さい。そして、私たちと共に六年目のキセキに出会い、六年目のキセキと一緒に創りあげましょう。

第6回伍桃祭実行委員長
黒崎諒

第六回新潟医療福祉大学「伍桃祭」10/7-8

- ・トークショー(高橋翼さんによるライブ、演説など)
- ・野外コンサート
- ・出店
- ・パフォーマンスライブ(新潟医療福祉大学Ms.Mr.など)
- ・各学科紹介

スポーツ大会の報告

6月25日(日)に行われたスポーツ大会は、全学科約300人の学生が参加しました。



1年生から3年生まで幅広く参加して、とても盛り上がりました。種目は、男子のみ参加のサッカー、女子のみ参加のバレーボール、男女混合のドッジボールの3種目行いました。晴天にも恵まれ、暑い日差しの中、大きな怪我もなく無事終えることができました。今回のスポーツ大会は、同じ学科の1、2年生の壁を無くして交流を深め、よりよい学校生活を送ることを目的の一つとし、各チーム1、2年生合同でチームを作りました。お互いに交流関係も増え、とても有意義な時間を過ごす事ができたと思います。

学友会長 長嶋健介

同窓会

これまでの同窓会 これからの同窓会

同窓会は、設立して2年目の立ち上げて間もない組織です。在学生や卒業生、教員や保護者の皆様を密につなぐことを目的とし、昨年度は本会の安定した基盤づくりや、会誌の定期発行、卒業年次生への国家試験合格を祈願した鉛筆の配布などを行ってきました。また、今後の予定では第2回同窓会総会を10月21日(土)に行う予定です。現在、役員全員が仕事をもちながら、平行して同窓会活動を行っており、苦勞も多くありますが、本学の卒業生としての誇りを胸に邁進しております。これからも会員及び準会員の方々をはじめ、多くの方々のお力となれますよう組織の発展に努めたいと思っています。

同窓会長 齊藤公二



国家試験合格祈願鉛筆

受験生のみなさんへ

■募集学科・募集定員

| | | | |
|--------|-----|------------|------|
| 理学療法学科 | 80名 | 作業療法学科 | 40名 |
| 言語聴覚学科 | 40名 | 義肢装具自立支援学科 | 40名 |
| 健康栄養学科 | 40名 | 健康スポーツ学科 | 100名 |
| 看護学科 | 80名 | 社会福祉学科 | 120名 |

■入学試験日程 ※詳細は入試事務室までお問い合わせください。

| 入試区分 | 学科 | 出願期間 | 試験日 |
|------------|--------------------------------|------------------|---------------------------|
| A O 入 試 | 健康栄養学科・健康スポーツ学科 看護学科・社会福祉学科 | 8/28(月)~9/7(木) | 第一次9/16(土) 第二次10/14(土) |
| | 義肢装具自立支援学科 | 9/25(月)~10/5(木) | 10/14(土) |
| 公募推薦(前期日程) | 全学科 | 11/1(水)~11/9(木) | 11/18(土) |
| 公募推薦(後期日程) | 全学科 | 11/27(月)~12/7(木) | 12/16(土) |
| スポーツ自己推薦 | 健康スポーツ学科 | 11/1(水)~11/9(木) | 11/18(土) |
| 社会人等特別入試 | 全学科 | 11/1(水)~11/9(木) | 11/18(土) |
| センター試験利用入試 | 義肢装具自立支援学科 を除く全学科 | 1/9(火)~1/26(金) | 1/20(土)・21(日) |
| 一般入試(前期日程) | 全学科 | 1/9(火)~1/26(金) | 2/4(日) |
| 一般入試(後期日程) | 全学科 | 2/13(火)~2/23(金) | 3/4(日) |

※健康栄養学科、健康スポーツ学科、看護学科、社会福祉学科のAO入試は出願受付を終了しました。

入試トピックス

「健康スポーツ学科」定員増決定！
現行の60名定員から100名に定員を増やします。チャンスが更に広がります。

一般入試【前期日程】
試験会場を「福島県」に増設！
これまで実施の2会場(新潟会場、東京会場)に加え、新たに「福島県郡山市」にも試験会場を設置予定です。福島県内からはもちろん、宮城県、山形県など、近県の方もアクセス良好です。(詳細は「平成19年度学生募集要項」をご確認ください。)

イベント案内

■キャンパスツアー
10月8日(日) 11月3日(祝)
12月9日(土)

大学概要説明、入試概要説明はもちろん、施設見学、個別相談コーナー等充実のプログラムを用意しています。また、10月は学生が運営し、模擬店やゲストを招いてのトークライブなどが毎年行われる伍桃祭と同時開催され、11月は代々木ゼミナール講師による英語対策講座が行われる予定です。

入試やイベント情報等、詳しくはホームページをご覧ください。



新潟医療福祉大学

〒950-3198 新潟市島見町1398番地 TEL025-257-4455(代) FAX025-257-4456

URL <http://www.nuhw.ac.jp/> 携帯サイト <http://www.nuhw.jp/m/>

【入試事務室】TEL025-257-4459 E-mail nyuusi@nuhw.ac.jp

